

# 第10 日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）の融資

## 1 公庫設立年月日及び目的

株式会社日本政策金融公庫（平成20年10月1日設立）

国民生活金融公庫，農林漁業金融公庫，中小企業金融公庫及び国際協力銀行（国際金融等業務）が統合

株式会社日本政策金融公庫法（平成19年5月25日法律第57号）

（目的）

第1条 株式会社日本政策金融公庫（以下「公庫」という。）は、一般の金融機関が行う金融を補完することを旨としつつ、国民一般、中小企業者及び農林水産業者の資金調達を支援するための金融の機能並びに我が国にとって重要な資源の海外における開発及び取得を促進し、並びに我が国の産業の国際競争力の維持及び向上を図るための金融の機能を担うとともに、内外の金融秩序の混乱又は大規模な災害、テロリズム若しくは感染症等による被害に対処するために必要な金融を行うほか、当該必要な金融が銀行その他の金融機関により迅速かつ円滑に行われることを可能とし、もって我が国及び国際経済社会の健全な発展並びに国民生活の向上に寄与することを目的とする株式会社とする。

（定義）

第2条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 生活衛生関係営業 前条に規定する国民一般のうち、生活衛生関係営業（生活衛生関係の営業として政令で定める営業をいう。以下同じ。）を営む者であって、生活衛生同業組合その他の政令で定めるものをいう。

### 政策金融改革の流れ

#### <基本方針の決定>

- 『政策金融改革の基本方針』  
経済財政諮問会議（H17.11.29）
- 『行政改革の重要方針』  
閣議決定（H17.12.24）
- 『行政改革推進法』成立  
（H18.5.26）

- ・政策金融の機能の見直し，縮減
- ・対GDP比半減目標
- ・政策金融機関の再編の基本方針  
5機関を統合し，一つの新政策金融機関へ  
商工中金と政策投資銀行は完全民営化  
公営企業金融公庫を廃止
- ・危機対応体制の整備

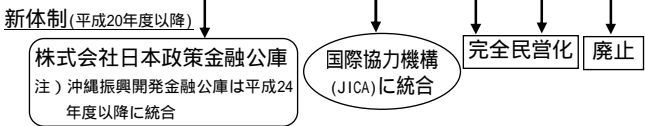
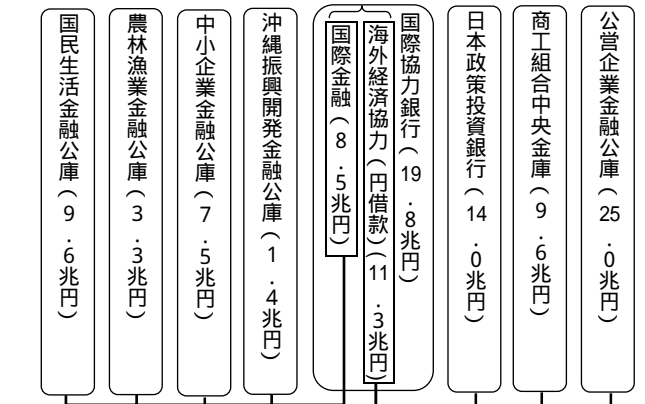
『政策金融改革の制度設計』  
行政改革推進本部で決定（H18.6.27）

『株式会社日本政策金融公庫法』『株式会社日本政策金融公庫法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律』  
（国会提出 H19.2.27，公布 H19.5.25）

- <株式会社日本政策金融公庫法の骨子>
- 1) 目的
  - 2) 組織・会計経理等  
政府の株式全額保有  
主要施策毎の勘定区分  
予算の国会議決等の国の監督  
国庫納付 等
  - 3) 業務  
行革推進法の業務限定を忠実に反映  
危機対応業務
  - 4) 設立規定等

『株式会社日本政策金融公庫』  
平成20年10月発足

現在（平成16年度末） 現行8機関（90.2兆円） 数字は貸出残高



## 2 貸付制度の概要

### (1) 貸付の対象・貸付金の使途

区 分		一般貸付制度 及び振興事業貸付制度	生活衛生関係営業 経営改善資金特別 貸付制度
貸 付 の 対 象	(対象業種) 会社及び個人 食肉販売業，食鳥肉販売業，氷雪販売業	(資本金又は) 出資金	(常時使用する従 業員の数)  5人以下
		又は (常時使用する) は (従業員の数)	
		5,000万円以下 50人以下	
	飲食店営業，喫茶店営業，理容業， 美容業，浴場業	5,000万円以下 100人以下	
	旅館業	5,000万円以下 200人以下	
	食肉卸売業，食鳥肉卸売業，氷雪卸売業	1 億 円 以下 100人以下	
	興行場営業	3 億 円 以下 100人以下	
	クリーニング業	3 億 円 以下 300人以下	
組合等 生活衛生同業組合，生活衛生同業小組合， 生活衛生同業組合連合会，事業協同組合等			
理容師・美容師養成施設の開設者			
貸 付 金 の 途	会社及び個人：設備資金，運転資金（振興事業貸付，生活衛生関係営業経営改善資金特別貸付等） 組合等：設備資金，共同購入運転資金，運転資金（振興事業貸付）		

(2) 貸付制度概要（全貸付）

区分	貸付対象	貸付限度額
一般貸付	会社・個人 （対象業種） 1 飲食店営業 ・そば・うどん店 ・中華料理店 ・すし店 ・料理店 ・社交業 ・その他飲食店 2 喫茶店営業 3 食肉販売業 ・食肉販売業・食鳥肉販売業 4 冰雪販売業 5 理容業 6 美容業 7 興行場営業（映画，演劇，演芸にかかるもの） 8 旅館業 9 浴場業 ・一般公衆浴場業 ・サウナ営業 ・その他公衆浴場（注） 10 クリーニング業	設備資金 7,200万円 ただし， クリーニング業 1億2,000万円 興行場営業 2億円 旅館業 4億円 一般公衆浴場業 3億円 ・既存浴場で2施設以上の場合 4億8,000万円 ・借地契約の更新又は買取の場合 別枠1億5,000万円 サウナ営業 2億円
	組合等 生活衛生同業組合，同小組合及び同連合会 事業協同組合 商工組合等 準学校法人・公益法人 〔理容師・美容師 養成施設の開設者〕	1 組合 設備資金及び共同購入運転資金の合計 生活衛生同業組合 1億5,000万円 （理・美容師養成施設 2億8,000万円） 同連合会 3億円 同小組合 5,000万円 その他の組合 5,000万円 （理・美容師養成施設 1億8,000万円） 2 準学校法人・公益法人 設備資金 4,500万円 （理・美容師養成施設 1億8,000万円）
振興事業貸付	振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合及び同小組合の組合員 （対象業種） 一般貸付の に同じ	設備資金 1億5,000万円 ただし， 一般公衆浴場業（別枠） 1億5,000万円 クリーニング業 3億円 興行場営業 7億2,000万円 旅館業 7億2,000万円 運転資金 5,700万円 （設備資金とは別枠）
	振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合及び同小組合 （対象業種） 1 飲食店営業 2 喫茶店営業 3 食肉販売業 4 食鳥肉販売業 5 冰雪販売業 6 理容業 7 美容業 8 興行場営業 9 旅館業 10 浴場業 11 クリーニング業	振興事業設備資金及び共同購入運転資金の合計 生活衛生同業組合 2億1,600万円 同小組合 8,000万円 振興事業運転資金 生活衛生同業組合 9,000万円 同小組合 4,000万円
	厚生労働大臣が振興指針を告示した業種に係る生活衛生同業組合連合会 （対象業種） 上記 に同じ	振興事業運転資金 9,000万円

（注）その他公衆浴場については，レジオネラ症の発生のおそれがある施設又は設備の改善を図るための資金に限る。

区分		貸付対象	貸付限度額
災害貸付		会社・個人 (対象業種) 一般貸付のと同じ	設備資金 災害ごとに上乗せ3,000万円
		組合等 (対象業種) 一般貸付のと同じ	設備資金・共同購入運転資金 災害ごとに上乗せ5,000万円
生活衛生営業関係改善係	資金特別貸付	生活衛生同業組合理事長等の推薦を受けた者 (対象業種) 一般貸付に同じ	設備資金及び運転資金の合計で 1,000万円
特例貸付	環境対策等関連施設貸付	防災・環境対策資金 ・消防設備の設置又は整備を行う者 ・耐震診断を行う者及び事業継続計画を策定し、同計画に基づき耐震に資する施設等の導入を行う者 ・アスベストの発生及び飛散の防止のため施設等からのアスベストの除去等を行う者 (対象業種) 一般貸付に同じ	設備資金 上乗せ3,000万円 (ただし、上乗せ限度額は設備資金・運転資金の合計で3,000万円) 運転資金 (耐震診断及び除去したアスベストの処理に必要な資金に限る)
	事業安定等施設貸付	雇用安定資金 振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合及び同小組合の組合員であって、事業の拡大等を行うことにより、従来に比べて事業所全体で2人以上(中小企業信用保険法の特定業種に該当する業種の場合又は従業員規模が20人以下の場合は1人以上)の人材確保が見込まれる者 (対象業種) 一般貸付に同じ	設備資金 上乗せ3,000万円
	健康・福祉増進関連事業施設貸付	福祉増進資金 生活衛生営業指導センター(組合等においては厚生労働省)から「福祉増進関連事業施設等」である旨の証明を受けた者 (対象業種) 一般貸付に同じ	設備資金 上乗せ3,000万円 運転資金(組合等のみ)(注) (ただし、上乗せ限度額は本貸付の2資金の通算で3,000万円)
		受動喫煙防止資金 店舗など多くの人が利用する施設において、顧客の受動喫煙による影響を排除・減少させるための設備を設置又は整備する者 (対象業種) 飲食店営業、喫茶店営業、理容業、美容業、興行場営業、旅館業、一般公衆浴場業及びサウナ営業	設備資金 上乗せ3,000万円 (ただし、上乗せ限度額は本貸付の2資金の通算で3,000万円)

(注) 健康・福祉増進関連事業施設貸付(福祉増進資金)にかかる上乗せ限度額は、設備資金及び運転資金の通算で3,000万円である。

区分		貸付対象	貸付限度額
特別貸付	対策特別貸付 衛生環境激変	感染症又は食中毒の発生による衛生環境の著しい変化に起因して、衛生水準の維持向上に著しい支障を来しており、かつ、所定の要件に該当する者 （対象業種） 一般貸付に同じ	（別枠） 運転資金 衛生環境の激変事由ごとに1,000万円
	経営環境変化対応資金 生活衛生関係営業セーフティネット貸付	振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合及び同小組合の組合員であって、売上が減少するなど業況が悪化している者 （対象業種） 一般貸付に同じ	運転資金 振興事業貸付（運転資金）と合わせて 5,700万円 （ただし、平成22年3月31日までは、5,700万円）
	金融環境変化対応資金	振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合及び同小組合の組合員であって、取引金融機関の経営破綻などにより、資金繰りに困難を来している者 （対象業種） 一般貸付に同じ	（別枠） 運転資金 3,000万円 （ただし、平成22年3月31日までは、4,000万円）

(3) 貸付方式

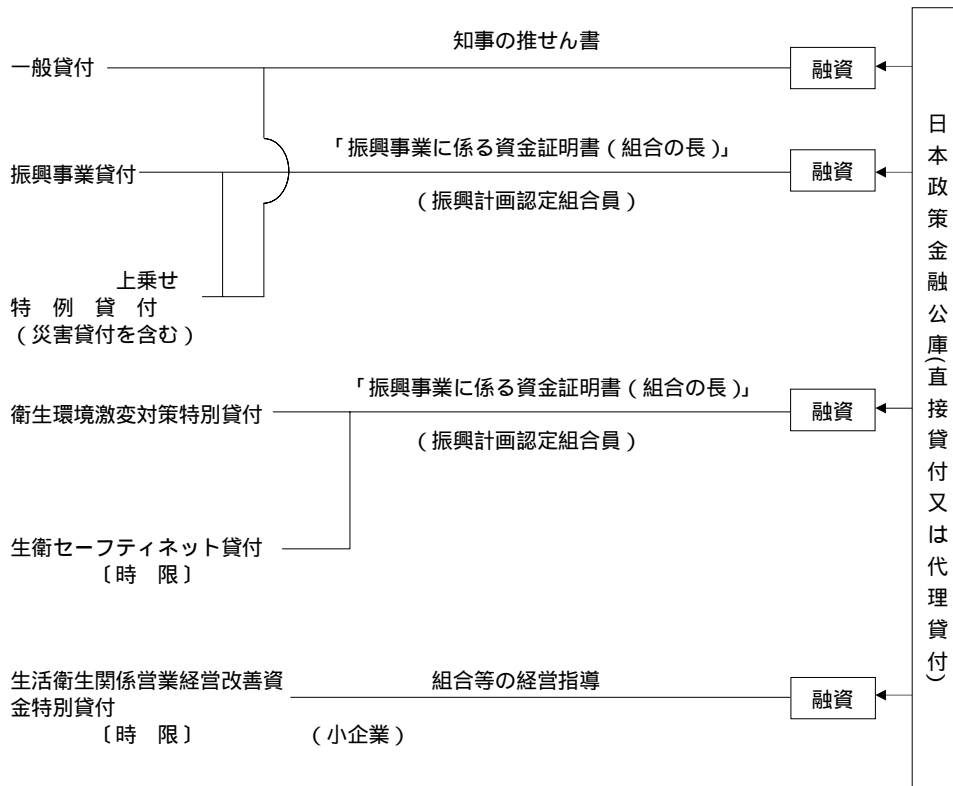
直接貸付

日本政策金融公庫の全国の152支店において取り扱っている。

代理貸付（次表の金融機関に貸付業務を委託している）

委 託 先		取 扱 金 額 等
銀行 信用金庫 信用組合 商工組合 中央金庫	日本政策金融公庫 （生活衛生資金貸付）指定の民間金融機関 本・支店	一般貸付及び振興運転資金貸付の申込金額が原則として300万円を超えるもの、振興事業設備貸付の設備資金、特例貸付、災害貸付等（生活衛生関係営業経営改善資金特別貸付は除く。）を利用するもの。

(4) 制度フローチャート



### 3 一般貸付

- (1) 衛生水準を高め、近代化を促進するために必要な設備資金貸付（振興計画認定組合の組合員は、4 振興事業貸付（115頁）を参照のこと）

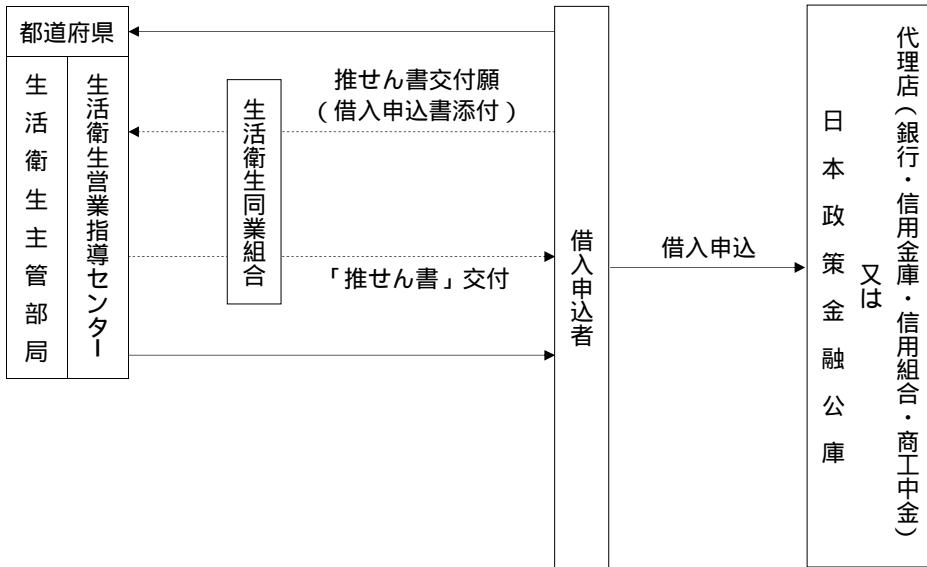
借入申込額が300万円を超える場合には、原則として都道府県知事の「推せん書」の添付が必要。

- (2) 制度の概要

業 種	貸付限度額	貸 付 期 間	貸付利率（年）
飲食店営業，喫茶店営業 食肉販売業，食鳥肉販売業 氷雪販売業，理容業，美容業 浴場業（その他公衆浴場業）	7,200万円	13年以内 ただし	基準利率 特別利率
クリーニング業	1億2,000万円	従業員宿舍等 15年以内	近代化等 特利 省エネルギー設備等 特利
興行場営業 浴場業（サウナ営業）	2億円	一般公衆浴場業 30年以内	衛生設備等 特利 浴場確保対策 浴場利率
浴場業（一般公衆浴場業）	3億円 （特別な場合 4億8,000万円）		
	借地更新・買取資金の場合 （別枠）1億5,000万円		
旅館業	4億円		

- (注) 1 上記以外に生活衛生同業組合，理容師・美容師養成施設の開設者等に対する融資もある。
- 2 貸付利率の欄の金利については，(参考)日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率一覧表（130頁）を参照のこと。
- 3 浴場業（その他公衆浴場業）については，レジオネラ症の発生のおそれがある施設または設備の改善を図るための資金に限る。
- 4 クリーニング取次業（平成16年4月16日現在クリーニング業を営んでいた者であって，同日以降クリーニング取次業に業態転換したものに限る。）の貸付限度額は4,800万円。

(3) 手続フローチャート





## (4) 一般貸付特別利率対象設備一覧

貸付対象者	貸付利率	施設又は設備
飲食店営業 及 喫茶店営業	特利	換気設備，消毒設備（消毒保管器を含む。）
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
食肉販売業 及 食鳥肉販売業	特利	蒸気噴霧掃除機
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
氷雪販売業	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
理容業 及 美容業	特利	消毒設備，換気設備，タオル蒸器
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
興行場営業	特利	換気設備
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
旅館業	特利	換気設備，滅菌機，循環ろ過機，消毒設備（消毒保管器を含む。）
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
一般公衆浴場業	浴場利率	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置，浴場施設・設備（浴槽，洗場，店舗等，煙突，給 水湯設備，超音波設備，赤外線設備，ロッカー，鏡，深井戸，深井戸用ポン プ，換気設備，空気清浄機，空気調和設備，冷暖房設備，給排水衛生設備， 貯油槽，給油車，重油貯蔵所，業務用の洗濯・脱水機，集塵・掃除機，乾燥 機，消毒設備），借地契約の更新又は借地の買取に要する資金
	特利	共同重油貯蔵所
サウナ営業	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置
クリーニング業	特利	換気設備，溶剤排出防止設備，産業廃棄物共同集積施設
	特利	建物の省エネルギー性能の向上に資する設備，機器及び建築材料 太陽熱利用冷温熱装置

(注) 1 の設備が特別利率の適用を受けるのは，一定の条件を満たす場合に限る。

2 は，組合等を対象とした設備である。

3 貸付利率の欄の金利については，(参考)日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率一  
覧表（130頁）を参照のこと。

## 4 振興事業貸付

(1) 振興計画の認定を受けている生活衛生同業組合の組合員である会社又は個人を対象とする貸付。

振興事業設備貸付と振興運転資金貸付とがあり、借入申込みの際には、認定組合の長が発行する「振興事業に係る資金証明書」の添付が必要。

(2) 制度の概要

業種	貸付限度額		貸付期間	貸付利率(年)
飲食店営業, 喫茶店営業, 食肉販売業, 食鳥肉販売業, 氷雪販売業, 理容業, 美容業	(設備資金) 1億5,000万円	(運転資金)  5,700万円 (設備資金とは別枠)	(設備資金) 18年以内 〔店舗等の新設又は従業員宿舍の新設の場合20年以内〕	(設備資金) 特定の施設・設備特利
一般公衆浴場業	別枠 1億5,000万円			上記以外は一般貸付と同様
クリーニング業	3億円		(運転資金) 5年以内 〔特に必要な場合7年以内〕	(運転資金) 基準利率
興行場営業, 旅館業	7億2,000万円			〔ただし, 標準営業約款登録業者については特別利率とする。〕

(注) 1 一般公衆浴場業の限度額は一般貸付と別枠。

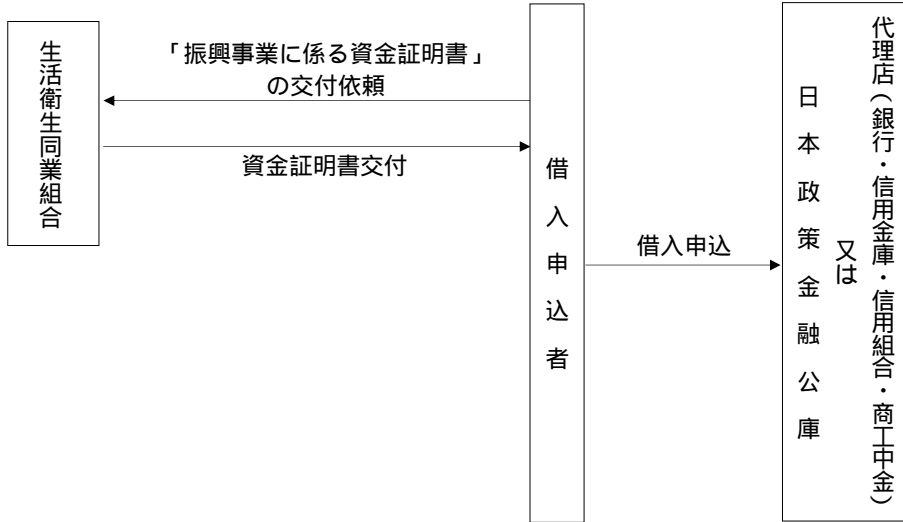
2 設備資金の貸付額が2億7,000万円超の部分については、基準利率とする。

3 クリーニング取次業(平成16年4月16日現在クリーニング業を営んでいた者であって、同日以降クリーニング取次業に業態転換したものに限る。)の貸付限度額は設備資金及び運転資金の通算で4,800万円。

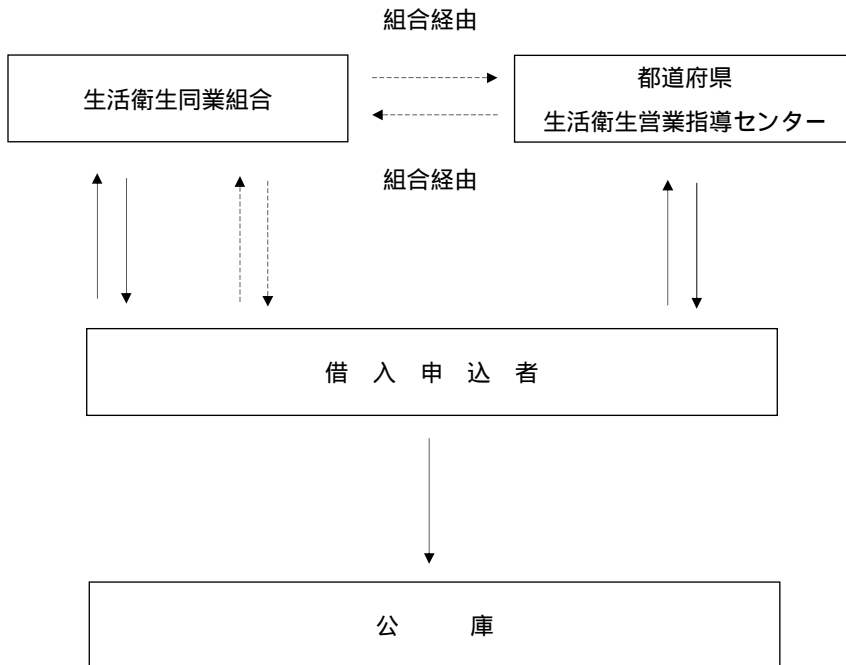
4 上記以外に生活衛生同業組合等に対する融資もある。

5 貸付利率の欄の金利については、(参考)日本政策金融公庫(生活衛生資金貸付)貸付利率一覧表(130頁)を参照のこと。

(3) 手続フローチャート



標準営業約款登録業者が振興事業貸付（運転資金）の借入を行う場合の申込手続の流れ



「振興事業に係る資金証明書」の交付申請

「振興事業に係る資金証明書」の交付

「標準営業約款登録業者であることの証明書」の交付申請（別紙1）

「標準営業約款登録業者であることの証明書」の交付（別紙2）

借入申込（「振興事業に係る資金証明書」, 「標準営業約款登録業者であることの証明書」等添付）



(4) 振興事業貸付特別利率適用対象施設設備一覧

業種 区分・年利率	飲食店営業	喫茶店営業	食肉販売業	食鳥肉販売業	水雪販売業
(営業者) 特利	店舗等 厨房設備 空気調和設備 価格表示設備 仕入・配送用車両 音響設備 業務用家具 駐車場設備 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 換気設備 送迎用車両 A E D（自動体外式除細動器）	店舗等 厨房設備 空気調和設備 価格表示設備 仕入・配送用車両 音響設備 業務用家具 駐車場設備 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 換気設備 A E D（自動体外式除細動器）	店舗等 冷凍・冷蔵設備 空気調和設備 解凍庫 作業用設備 揚（焼）物機器 計量器 仕入・配送用車両 真空包装機 ソーセージ製造機 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 蒸気噴霧掃除機 A E D（自動体外式除細動器）	店舗等 冷凍・冷蔵設備 空気調和設備 解凍庫 作業用設備 揚（焼）物機器 計量器 仕入・配送用車両 真空包装機 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 蒸気噴霧掃除機 A E D（自動体外式除細動器）	店舗等 配送用車両 冷凍設備 アイスクラッシャー 電気鋸 情報近代化設備 防犯設備 A E D（自動体外式除細動器）
(組合) 特利	研修施設 共同冷凍庫 共同配送用保冷車両 共同情報近代化設備 共同送迎用車両	研修施設 共同冷凍庫 共同配送用保冷車両 共同情報近代化設備	研修施設 共同冷凍庫 共同配送用保冷車両 共同食肉処理場 共同情報近代化設備	研修施設 共同冷凍庫 共同配送用保冷車両 共同食鳥肉処理場 共同情報近代化設備	共同情報近代化設備

(注) 1 印の設備が特別利率の適用を受けるのは、一定の条件を満たす場合に限る。  
 2 区分・年利率の欄の金利については、(参考) 日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率一覧表

理 容 業	美 容 業	一般公衆浴場業	クリーニング業	興 行 場 営 業	旅 館 業
店舗等 理容電動椅子 空気調和設備 循環式同時給湯設備 洗濯・脱水機・乾燥機 毛髪・頭皮関連機器 業務用家具 店舗標識灯 ワゴン式ヘアセット 前洗髪設備 ラザーミキサー 集塵・掃除機 音響設備 駐車場設備 情報近代化設備 フェイシャル機器 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 換気設備 タオル蒸器 消毒設備 A E D (自動体外式除細動器)	店舗等 美容電動椅子 空気調和設備 循環式同時給湯設備 洗濯・脱水機・乾燥機 毛髪・頭皮関連機器 業務用家具 店舗標識灯 ワゴン式ヘアセット 洗髪ユニット設備 セットミラー 集塵・掃除機 音響設備 駐車場設備 情報近代化設備 フェイシャル機器 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 換気設備 タオル蒸器 消毒設備 A E D (自動体外式除細動器)	教養娯楽・健康コーナー サウナ施設 喫茶コーナー 家族風呂施設 コインランドリー 駐車場設備 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 自動券売機 A V機器 A E D (自動体外式除細動器)	店舗等 診断用カウンター 洗濯物診断店表示設備 洗濯・脱水(液)機 洗濯脱液乾燥機 ランドリー用乾燥機 ドライ用乾燥機 プレス機 有気圧ボイラー コンプレッサー ベルトコンベアー 配送用車両 空気調和設備 溶剤清浄装置 包装機 情報近代化設備 防犯設備 換気設備 溶剤排出防止設備 A E D (自動体外式除細動器)	店舗等 映写用設備 音響設備 舞台装置 椅子 空気調和設備 駐車場設備 入場券自動販売機 自動監視設備 情報近代化設備 防犯設備 デジタル映写設備 換気設備 A E D (自動体外式除細動器)	店舗等 厨房設備 空気調和設備 洗濯・脱水機・乾燥機 駐車場設備 送迎車 ボイラー レジャー機器 寝具 音響設備 情報近代化設備 全自動手指洗浄消毒器 防犯設備 換気設備 消毒設備 滅菌機 循環ろ過機 A V機器 A E D (自動体外式除細動器)
研修施設 移動研修車 共同情報近代化設備	研修施設 移動研修車 共同情報近代化設備	共同情報近代化設備	研修施設 共同特殊品処理工場 共同特殊品保管庫 共同購入資材配送用車両 研究施設 共同情報近代化設備	研修施設 共同情報近代化設備	研修施設 共同スポーツ施設 共同情報近代化設備

(130頁)を参照のこと。

## 5 特例貸付

(1) 環境対策等関連施設，事業安定等施設及び健康・福祉増進関連事業施設の設置又は整備に要する資金の貸付。

## (2) 制度の概要

区 分	貸付限度額	貸付期間	貸付利率
環境対策等 関連施設貸付	防災・環境対 策資金  上乗せ 3,000万円 (上乗せの限度額は 設備資金・運転資金 の合計で3,000万円)	設備資金 15年以内 振興計画に基づくも のは18年以内 一般公衆浴場業にか かるものは30年以内 運転資金 7年以内	設備資金 (消防関連・耐震関 連) 特利 振興計画に基づくも のは特利，一般公 衆浴場業にかかるも のは浴場利率 (アスベスト対策関 連)特利 一般公衆浴場業にか かるものは浴場利率 運転資金 基準利率
事業安定等施設 貸付	雇用安定資金  上乗せ 3,000万円	設備資金 18年以内 一般公衆浴場業に かかるものは30年 以内	設備資金 特利
健康・福祉増進関連 事業施設貸付	福祉増進関連 事業施設資金  上乗せ 3,000万円 (上乗せの限度額は 2資金の合計で3,000 万円)	15年以内 振興計画に基づくも のは18年以内 一般公衆浴場業にか かるものは 30年以内	特利 振興計画に基づくも のは特利 土地にか かるものは基準利率
	受動喫煙防止 施設資金		特利 振興計画に基づくも の及び一般公衆浴場 業にかかるものは特 利

(注) 1 貸付限度額は一般貸付・振興事業貸付(事業安定等施設貸付及び環境対策等関連施設貸付の運  
転資金は振興事業貸付に限る。)の貸付限度額に上記金額を上乗せした金額である。

2 上記以外に生活衛生同業組合等に対する融資もある。

3 貸付利率の欄の金利については、(参考)日本政策金融公庫(生活衛生資金貸付)貸付利率一  
覧表(130頁)を参照のこと。

(3) 手続

一般貸付，振興事業貸付の例による。ただし，申し込む際には，特定行政庁，都道府県，政令市等の発行する証明書等の添付が必要とされる場合があるので注意のこと。

(4) 資金の使途

種 類		資 金 の 使 途
環境対策等関連施設	防災・環境対策資金	<p>(ア) 消防法施行令（昭和36年政令第37号）第4条の3第3項に規定する防災対象物品，第7条第2項，第3項，第4項及び第6項に規定する消火設備，警報設備，避難設備，消防活動設備並びに液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施行令（昭和43年政令第14号）別表第1第10号に規定する液化石油ガス用ガス漏れ警報機</p> <p>（注）自発的に設置又は整備する場合にも対象となる。（消防機関からの証明書等は必要ない）</p> <p>(イ) アスベストの発生及び飛散の防止のために必要な施設又は設備</p> <p>(ウ) 事業継続計画（BCP）に基づく，耐震改修に資する施設又は設備</p> <p>(エ) アスベストの除去等適正処理に必要な運転資金</p> <p>(オ) 耐震診断に要する運転資金</p>
事業安定等施設	雇用安定資金	<p>振興計画に基づく事業を実施している者であって，事業の拡大等を行うことにより新たに2人以上（中小企業信用保険法第2条第4項第5号の特定業種に該当する場合は1人以上）の人材を確保するために必要な設備資金</p>
健康・事業福祉増進施設	福祉増進関連事業施設資金	<p>厚生労働省が定める高齢者等に配慮した施設整備基準に合致する施設又は設備</p> <p>（注）都道府県生活衛生営業指導センターが発行する「福祉増進関連事業施設に係る資金証明書」が添付されたものを対象とする。</p>
	受動喫煙防止施設資金	<p>顧客の受動喫煙による影響を排除・減少させるために必要となる施設又は設備（飲食店営業，喫茶店営業，理容業，美容業，興行場営業，旅館業，一般公衆浴場業及びサウナ営業に限る）</p>



## 6 生活衛生関係営業経営改善資金特別貸付

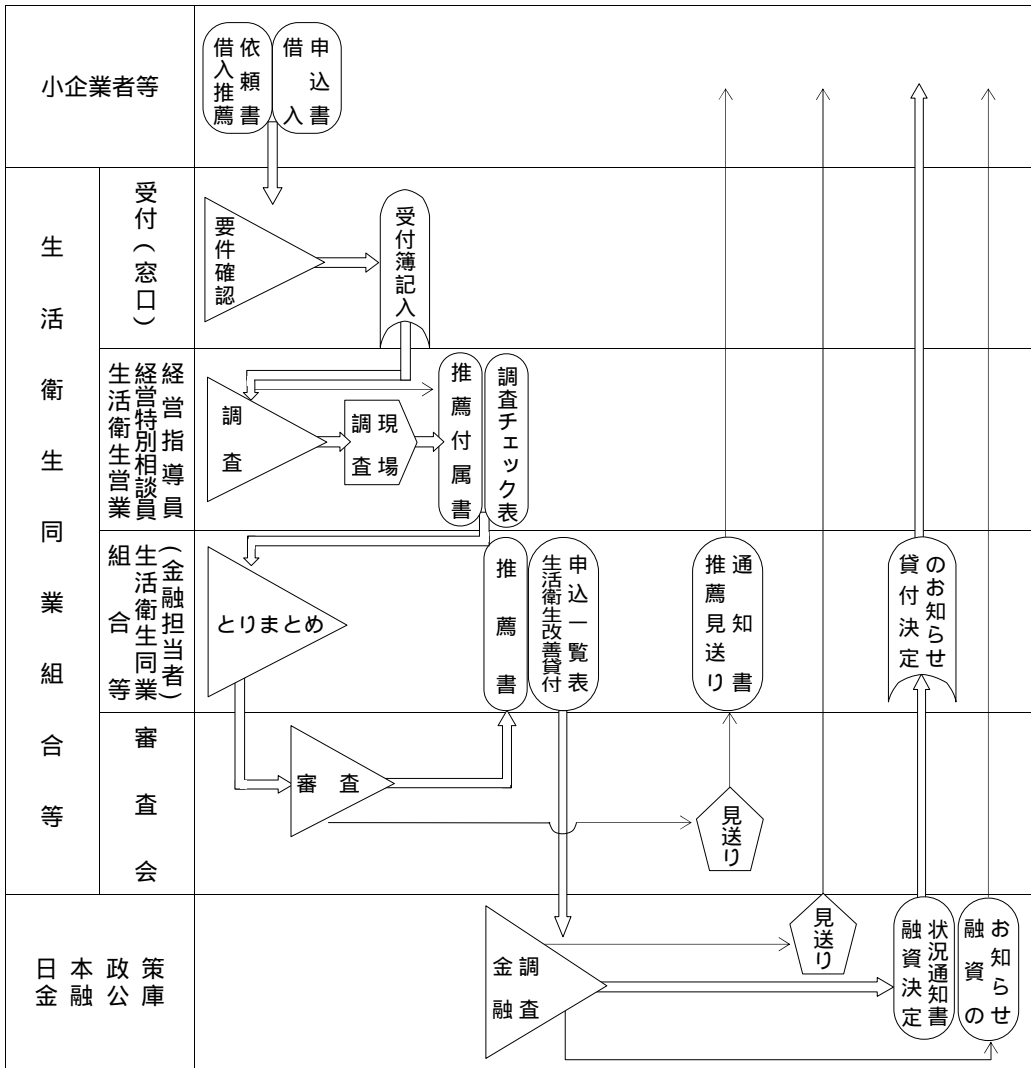
(1) 生活衛生同業組合又は都道府県生活衛生営業指導センターの実施する経営指導を受けている従業員5人以下の小企業者等を対象とする、経営改善を行うに当たっての小口資金。

(2) 制度の概要

貸付限度額	1,000万円
貸付期間	運転資金 5年以内 設備資金 7年以内
貸付利率	経営改善利率
担保・保証人	不要
実施期限	平成24年3月31日まで

(注) 貸付利率については、(参考)日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率一覧表（130頁）を参照のこと。

(3) 手続フローチャート



## 7 衛生環境激変対策特別貸付

(1) 感染症又は食中毒の発生による衛生環境の激変に起因して、一時的な業況悪化から衛生水準の維持向上に著しい支障を来している生活衛生関係事業者の経営の安定を図るために必要な運転資金の貸付。

### (2) 制度の概要

貸付対象	生活衛生関係事業者であって、次の(1)に該当し、衛生水準の維持向上の著しい支障を来していると認められるもので、かつ、(2)の要件を満たすもの (1) 衛生環境の激変に伴い、最近1か月間の売上高が前年又は前々年の同期に比較して10%以上減少しているか、又は業歴が1年未満の場合であって、これと同様の状況にあり、かつ、今後も売上高の減少が見込まれること (2) 中長期的に業況が回復し発展することが見込まれること
資金用途	一時的な業況悪化により支障をきたしている資金繰りを安定させるために必要な運転資金
貸付利率	基準利率（ただし振興計画に基づくものは特利）
貸付限度額	衛生環境の激変事由ごとに、別枠で1,000万円
貸付期間及び据置期間	貸付期間 5年以内（特に必要な場合、7年以内） 据置期間 6か月以内（特に必要な場合、1年以内）

（注）衛生環境激変対策特別貸付に係る貸付利率は、（参考）日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率一覧表（130頁）を参照のこと。

## 8 生活衛生関係営業セーフティネット貸付

### (1) 経営環境変化対応資金

社会的、経済的環境の変化等外的要因により、一時的に売上減少等業況悪化をきたしている生活衛生関係業者であって、中長期的にはその業況が回復し、かつ、発展することが見込まれる生活衛生関係業者の経営基盤の強化を図るため、これら生活衛生関係業者の必要とする運転資金の貸付。

#### 制度の概要

貸付対象	<p>振興計画に基づく事業を実施している生活衛生関係業者であって、社会的、経済的環境の変化等外的要因により、次の(1)から(7)のいずれかの経営状況に該当し、かつ、(8)の要件を備えるもの。</p> <p>(1) 最近の決算期における売上高が前期に比し10%以上（ただし、平成22年3月31日までは5%以上）減少していること、又は最近3か月の売上高が前年同期を下回り、かつ、今後も売上減少が見込まれること。</p> <p>(2) 最近の決算期における純利益額又は売上高経常利益率が前期に比して悪化していること。</p> <p>(3) 最近、回収条件の長期化又は支払条件の短縮化等取引条件が悪化していること。</p> <p>(4) 社会的な要因による一時的な業況悪化により資金繰りに著しい支障をきたしているもの又はきたすおそれのあるもの</p> <p>(5) 最近の決算期において、赤字幅が縮小したものの税引前損益又は経常損益で損失を生じていること。</p> <p>(6) 前期の決算期において、税引前損益又は経常損益で損失を生じており、最近の決算期において、利益が増加したものの利益準備金及び任意積立金等の合計額を上回る繰越欠損金を有していること。</p> <p>(7) 前期の決算期において、税引前損益又は経常損益で損失を生じており、最近の決算期において、利益が増加したものの債務償還年数が15年以上あること。</p> <p>(8) 中長期的にみて、業況が回復し、かつ、発展することが見込まれること。</p>
資金用途	<p>経営基盤の強化を図るために必要とする運転資金（貸付対象(4)に係るものについては、業況悪化を回避するために必要な運転資金を含む）</p>
貸付利率	<p>基準利率</p>
貸付限度額	<p>振興運転資金貸付と合わせて5,700万円（ただし、平成22年3月31日までは、5,700万円）</p>
貸付期間及び据置期間	<p>貸付期間 5年以内（特に必要と認められる場合7年以内（ただし、平成22年3月31日までは8年以内））</p> <p>据置期間 1年以内（特に必要と認められる場合2年以内（ただし、平成22年3月31日までは3年以内））</p>
実施期限	<p>平成24年3月31日まで</p>

（注）経営環境変化対応資金の取扱いは、日本政策金融公庫直接扱のみである。

(2) 金融環境変化対応資金

金融機関との取引状況の変化により、資金繰りに困難をきたしている生活衛生関係事業者が、長期資金の導入により経営安定を図るための運転資金の貸付。

制度の概要

<p>貸付対象</p>	<p>振興計画に基づく事業を実施している生活衛生関係事業者であって、金融機関との取引状況との変化により一時的に資金繰りに困難をきたしているもので、かつ、中長期的には資金繰りが改善し経営が安定することが見込まれるものとする。ただし、次のいずれかに該当するものに限る。</p> <p>(1) 取引金融機関が行政庁から業務停止命令（一部業務停止命令を含む。）を受けたもの。</p> <p>(2) 取引金融機関が次のいずれかの実質的経営破綻等の状態にあるもの。  整理回収機構又は預金保険機構を活用した不良債権処理を伴う営業譲渡、事業譲渡又は合併が公表されたこと。  上記に準ずるものと認められる場合。</p> <p>(3) 次の 又は のいずれかに該当するもの  取引金融機関からの借入等が整理回収機構に譲渡された者等で、経常利益を計上している等、業況が順調であると認められるもの。  再生の可能性があるものとして、取引金融機関からの借入等が整理回収機構に信託された者で経営利益を計上している等業況が順調であると認められるもの。</p> <p>(4) 経営状況が悪化していないにもかかわらず、取引金融機関との取引状況が変化しているもの。ただし、経営状況が次の 又は に該当し、かつ取引金融機関との取引状況が から のいずれかに該当するものに限る。</p> <p>経営状況  最近における税引前損益又は経常損益が、前年同期又は2年前若しくは3年前の同期に比し悪化していないこと。悪化している場合であっても、過去5年間の決算期における平均の税引前損益又は経常損益に比し悪化していない等、中長期的には資金繰りの改善と経営の安定が十分見込まれること。  最近における売上高に対する借入金残高（割引手形及び社債の残高を含む。）又は支払利息割引料の比率が前年同期又は2年前若しくは3年前の同期に比して増加していないこと。</p> <p>実効金利等の状況  次のいずれかに該当すること。  ア 最近における実効金利が前年同期に比し上昇している場合において、同時期における長期プライムレートが実効金利の上昇幅以上に上昇していないこと。  イ 最近における実効金利が前年同期と同じである場合において、同期間における長期プライムレートが低下していること。  ウ 最近における実効金利が前年同期に比し低下している場合において、同期間における長期プライムレートが実効金利の低下幅より低下していること。</p> <p>担保設定額の状況  最近における借入金残高及び割引手形残高の合計額に対する担保設定額の比率が前期に比し増加していること。  ただし、単に借入金が順調に返済され、その期間、担保設定額の見直しがなされなかったために比率が増加することとなった場合は、該当しないものであること。</p> <p>調達困難の状況  取引金融機関からの資金調達が困難になっている蓋然性が高いと考えられる次のいずれかの状態にあること。  ただし、次のイ及びウについては、最近における長期借入金、短期借入金及び割引手形の合計額が増加していないものに限る。  ア 最近における固定長期適合率が上昇していること。ただし、自己資本の減少のみにより、又は、固定資産の増加のみにより、固定長期適合率が上昇した場合を除く。</p>
-------------	---

	<p>イ 定期性預金の取崩し又は資産売却を行っていること。ただし、設備投資の資金調達のための定期性預金の取崩しを行った場合及び遊休資産を売却した場合を除く。</p> <p>ウ 最近における回収条件が短縮化又は支払条件が長期化していること。</p> <p>エ 継続的に利用している短期借入金について、借入金額が減少されたこと又は利用継続を停止されたこと。ただし、担保価値の下落に伴い借入金額の減少又は利用継続の停止となった場合を除く。</p> <p>オ 最近における手形の割引について、取引金融機関から割引金額を減少されたこと又は利用継続を停止されたこと。</p> <p>カ 次のいずれかに該当すること。</p> <p>(ア) 最近における手形の割引利率が前年同期に比し上昇している場合における短期プライムレートが手形の割引利率の上昇幅以上に上昇していないこと。</p> <p>(イ) 最近における手形の割引利率が前年同期と同じである場合において、同期間における短期プライムレートが低下していること。</p> <p>(ウ) 最近における手形の割引利率が前年同期に比し低下している場合において、同期間における短期プライムレートが手形の割引利率の低下幅より低下していること。</p>
資金使途	金融機関との取引状況の変化に伴い必要とする運転資金
貸付利率	基準利率
貸付限度額	既往貸付残高にかかわらず別枠3,000万円以内（ただし、平成22年3月31日までは4,000万円）
貸付期間及び据置期間	貸付期間5年以内（特に必要と認められる場合7年以内） 据置期間1年以内（特に必要と認められる場合2年以内）
実施期限	平成24年3月31日まで（貸付対象欄の(4)については平成21年3月31日まで）

（注）金融環境変化対応資金の取扱いは、日本政策金融公庫直接扱のみである。

(参考)

## 9 日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）貸付利率 - 覧表

平成20年10月10日現在

(単位：％(年))

貸付期間	特別利率	特別利率	特別利率	浴場利率	経営改善利率	基準利率
5年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	2.15	2.45
5年超6年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	2.15	2.45
6年超7年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	2.15	2.45
7年超8年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	-	2.50
8年超9年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	-	2.50
9年超10年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	-	2.50
10年超11年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	-	2.60
11年超12年以内	1.95	1.70	1.45	1.45	-	2.65
12年超13年以内	2.05	1.80	1.55	1.45	-	2.65
13年超14年以内	2.05	1.80	1.55	1.45	-	2.70
14年超15年以内	2.15	1.90	1.65	1.50	-	2.70
15年超16年以内	2.15	1.90	1.65	1.50	-	2.75
16年超17年以内	2.25	2.00	1.75	1.60	-	2.75
17年超18年以内	2.25	2.00	1.75	1.60	-	2.80
18年超19年以内	2.35	2.10	1.85	1.70	-	2.80
19年超20年以内	2.35	2.10	1.85	1.70	-	2.85
20年超21年以内	2.45	2.20	1.95	1.80	-	2.85
21年超22年以内	2.45	2.20	1.95	1.80	-	2.85
22年超23年以内	2.45	2.20	1.95	1.80	-	2.90
23年超24年以内	2.55	2.30	2.05	1.90	-	2.90
24年超25年以内	2.55	2.30	2.05	1.90	-	2.90
25年超26年以内	2.55	2.30	2.05	1.90	-	2.95
26年超27年以内	2.65	2.40	2.15	2.00	-	2.95
27年超28年以内	2.65	2.40	2.15	2.00	-	2.95
28年超29年以内	2.65	2.40	2.15	2.00	-	3.00
29年超30年以内	2.65	2.40	2.15	2.00	-	3.00

基準利率（5年超8年以内）において、基準利率を適用する運転資金に限り2.45%とする。

## 10 日本政策金融公庫（生活衛生資金貸付）予算の年度別推移

### (1) 一般会計より受入金（補給金）及び出資金

（単位：百万円）

年度 区分	昭42	60	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
当 算 予 額	221	6,394	4,869	4,012	5,991	6,420	6,720	6,604	6,730	5,544	5,002	4,517	2,583	1,190
補 正 増 減	1	0	0	0	0	0	0	0	2,338	1,233	874	467	398	355
決 算 額	198	6,394	4,439	4,012	5,991	6,420	6,720	6,604	9,068	6,777	5,876	4,984	2,981	1,545
不 用 額	22	0	430	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一 般 会 計 出 資 金	1,000	0	0	0	0	1,000	1,703	2,200	4,154	0	0	4,700	0	0

年度 区分	13	14	15	16	17	18	19	20 予算
当 算 予 額	2,002	1,429	984	838	696	663	702	725
補 正 増 減	0	0	0	0	0	0	0	0
決 算 額	2,002	1,429	984	801	696	663	702	
不 用 額	0	0	0	37	0	0	0	
一 般 会 計 出 資 金	700	200	0	3,300	355	0	1,400	

（注）平成10年度までは環境衛生金融公庫計上分，11年度以降は国民生活金融公庫計上分である。

### (2) 貸付計画額等

（単位：億円）

年度 区分		昭42	60	平元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
貸 付 金	当 初	(0) 200	(210) 1,850	(210) 2,020	(210) 2,150	(210) 2,250	(210) 2,350 ( 70)	(210) 2,800	(210) 3,060	(210) 3,200	(210) 2,800 ( 70)	(210) 2,600 (50)	(210) 3,200	(210) 3,200	(210) 3,200
	追 加	0	0 (210)	0 (210)	0 (210)	0 (210)	750 (140)	530 (210)	0 (210)	0 (210)	400 (140)	600 (260)	0 (210)	0 (210)	0 (210)
	計	200	1,850	2,020	2,150	2,250	3,100	3,330	3,060	3,200	2,400	3,200	3,200	3,200	3,200
実 績	61	1,536	1,991	2,066	2,225	3,022	3,324	3,001	2,517	2,291	2,177	2,271	2,048	1,786	
残 高	238	6,347	6,196	6,873	7,649	9,027	10,299	11,254	10,930	10,934	10,921	11,112	11,157	10,923	

年度 区分		13	14	15	16	17	18	19	20 予算
貸 付 金	当 初	(210) 2,530	(190) 2,300	(190) 2,300	(190) 2,300	(170) 2,200	(150) 2,000	(150) 1,800	(150) 1,750
	追 加	0 (210)	0 (190)	0 (190)	0 (190)	0 (170)	0 (150)	0 (150)	
	計	2,530	2,300	2,300	2,300	2,200	2,000	1,800	
実 績	1,681	1,318	1,293	1,034	941	765	675		
残 高	10,483	9,813	9,156	8,372	7,552	6,798	6,073		

（注）1 （ ）内は，小企業等設備改善資金特別貸付分（20から生活衛生関係営業経営改善資金特別貸付分）で，内書である。

2 42年度の生活衛生資金としては，200億円の外に国民金融公庫計上分100億円がある。



## 11 貸付状況等

### (1) 貸付の推移

区分	42年度	60	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
貸付額 (億円)	61	1,392 (144)	1,907 (84)	1,989 (77)	2,126 (99)	2,903 (119)	3,191 (133)	2,890 (111)	2,398 (119)	2,169 (122)	2,063 (114)	2,145 (126)	1,936 (112)	1,689 (97)
貸付件数 (件)	9,588	46,784 (7,047)	35,757 (3,760)	32,225 (3,320)	32,238 (3,943)	36,476 (4,779)	39,634 (5,404)	36,905 (4,362)	34,615 (4,300)	32,504 (4,601)	32,411 (4,342)	33,353 (4,517)	31,096 (3,996)	28,355 (3,473)
1件あたり 貸付金 (千円)	640	2,975 (2,047)	5,333 (2,244)	6,172 (2,311)	6,595 (2,512)	7,959 (2,488)	8,053 (2,454)	7,832 (2,551)	6,927 (2,778)	6,675 (2,646)	6,364 (2,638)	6,434 (2,796)	6,227 (2,807)	5,959 (2,797)

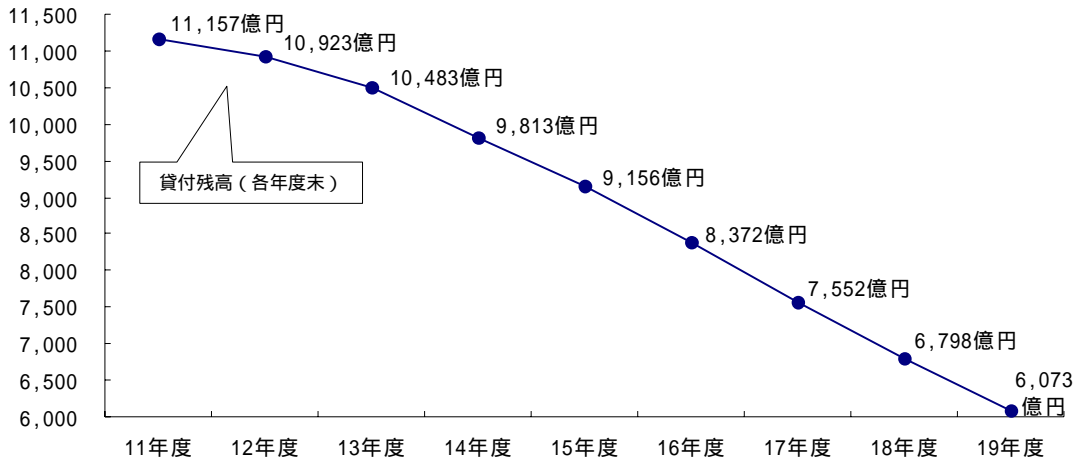
区分	13	14	15	16	17	18	19
貸付額 (億円)	1,598 (83)	1,246 (71)	1,225 (68)	983 (52)	892 (50)	725 (40)	675 (36)
貸付件数 (件)	28,357 (3,010)	23,786 (2,661)	22,984 (2,512)	18,920 (1,942)	16,902 (1,827)	14,469 (1,551)	14,675 (1,404)
1件あたり 貸付金 (千円)	5,633 (2,780)	5,241 (2,691)	5,330 (2,718)	5,194 (2,672)	5,276 (2,729)	5,009 (2,627)	4,602 (2,588)

(注)( )内数字は、小企業等設備改善資金特別貸付分で、外書である。

### (2) 貸付実績等について

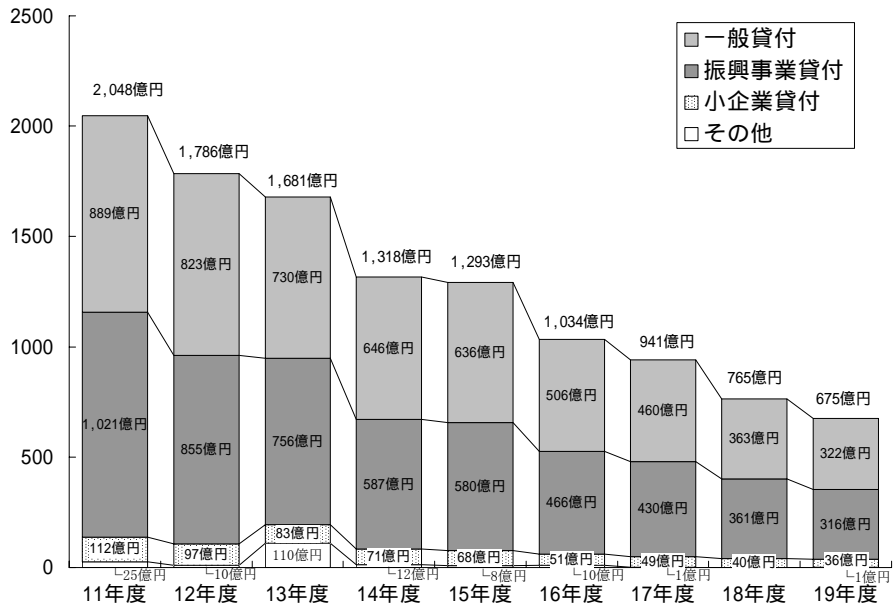
#### 融資残高

(億円)



融資実績

(億円)



## (3) 平成19年度業種別・貸付種別貸付状況（平成20年3月末現在）

業種等	一 般 貸 付		振興事業貸付		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金 額
	飲食店関係営業	5,354	22,035,134	3,035	16,325,375	8,389
そば・うどん店	212	1,005,400	142	793,515	354	1,798,915
中華料理店	459	2,062,870	254	1,385,970	713	3,448,840
すし店	199	676,330	176	882,210	375	1,558,540
料理店	17	58,500	32	398,100	49	456,600
喫茶店	368	1,312,810	167	929,000	535	2,241,810
社交業	315	1,039,190	257	922,150	572	1,961,340
その他飲食店	3,784	15,880,034	2,007	11,014,430	5,791	26,894,464
食肉販売業	32	120,550	42	251,750	74	372,300
食鳥肉販売業	5	5,850	19	83,900	24	89,750
氷雪販売業	2	4,350	3	15,000	5	19,350
理容業	583	1,878,736	652	2,913,130	1,235	4,791,866
美容業	1,149	5,098,179	1,397	7,831,769	2,546	12,929,948
興行場営業	5	181,000	1	6,000	6	187,000
ホテル・旅館業	150	817,350	259	2,967,620	409	3,784,970
簡易宿所営業	35	232,000	10	89,000	45	321,000
下宿営業	0	0	0	0	0	0
一般公衆浴場業	96	1,300,080	2	4,000	98	1,304,080
サウナ営業	9	110,570	-	-	9	110,570
クリーニング業	180	462,930	227	1,090,520	407	1,553,450
理・美容師養成施設	0	0	-	-	0	0
合 計	7,600	32,246,729	5,647	31,578,064	13,247	63,824,793

(単位：件，千円)

生活衛生改善貸付		特別貸付		全貸付	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
679	1,911,140	13	38,900	9,081	40,310,549
27	76,870	1	5,000	382	1,880,785
77	232,460	0	0	790	3,681,300
30	66,730	2	2,500	407	1,627,770
1	5,500	0	0	50	462,100
74	204,310	1	1,000	610	2,447,120
47	129,660	0	0	619	2,091,000
423	1,195,610	9	30,400	6,223	28,120,474
0	0	3	22,000	77	394,300
0	0	0	0	24	89,750
0	0	0	0	5	19,350
369	867,260	0	0	1,604	5,659,126
118	321,830	4	4,000	2,668	13,255,778
3	14,000	0	0	9	201,000
17	49,600	0	0	426	3,834,570
0	0	0	0	45	321,000
0	0	0	0	0	0
12	18,100	0	0	110	1,322,180
-	-	-	-	9	110,570
206	451,060	4	12,530	617	2,017,040
-	-	-	-	0	0
1,404	3,632,990	24	77,430	14,675	67,535,213

## (4) 貸付制度の推移（主要事項）

年 月 日	推	移
42. 9. 2	環境衛生金融公庫設立	
42.10. 2	制度発足（貸付業務開始）	
43. 5.15	融資の一元化（環衛業を営むのに必要な設備資金は、原則としてすべて公庫資金により一元的に融資することとした）	
43. 6.15	災害貸付要綱の制定	
45. 9. 1	直接審査・貸付決定（乙式貸付の開始……一定金額以上の借入申込については、公庫が直接審査し、貸付決定を行うこととした）	
47. 7. 1	民間金融機関に対する業務の直接委託	
48.10.11	小企業等設備改善資金特別貸付の創設（常時雇用する従業員数が2人以下、クリーニング業にあっては5人以下の会社、個人。53.4.5小企業者に準ずる者～常時雇用する従業員数5人以下～も対象とした）（24.3.31まで）	
57. 1. 1	直接貸付の実施（東京都、神奈川県で申込金額が一定額を超えるものについては、公庫が直接貸付を行うこととした）（13.4.20廃止）	
57. 4. 6	公衆浴場特別対策の実施	
58. 4. 4	振興事業施設貸付の創設	
61.10. 1	運転資金貸付の創設（振興事業に係る運転資金制度の創設）	
元. 3. 7	消費税導入円滑化貸付の創設（3.3.31廃止）	
2. 3.26	経営基盤強化貸付の創設（3.3.31廃止）	
3. 1.23	活性化貸付の創設（4.12.31廃止）	
4. 9.14	緊急特例限度貸付制度の創設（7.3.31廃止）	
4.12.14	特定フロン等規制に係る特別貸付制度の創設（7.12.31廃止）	
4.12.14	発展基盤整備貸付の創設（7.3.31廃止）	
5. 6. 4	返済資金特別貸付制度の創設（7.3.31廃止）	
5. 6.16	環境衛生関係営業運転資金支援特別貸付制度の創設（7.6.30廃止）	
6. 2.24	成長支援特別貸付制度の創設（7.3.31廃止）	
7.10.19	事業展開支援特別貸付の創設（8.12.31廃止）	
7.10.19	運転資金円滑化特別貸付の創設（8.12.31廃止）	
7.10.19	返済資金緊急特別貸付の創設（17.3.31廃止）	
9.12. 1	営業振興運転資金貸付に係る貸付限度等の特例措置の実施（10.4.8廃止）	
10. 4. 8	衛生環境激変対策特別貸付の創設	
10. 4. 8	金融環境変化対応特別貸付の創設（12.12.22廃止）	
10. 5. 1	事業展開支援特別貸付の創設（14.3.31廃止）	
10. 6.17	運転資金円滑化特別貸付の創設（12.12.22廃止）	
11.10. 1	国民金融公庫と環境衛生金融公庫が統合し、国民生活金融公庫発足	
12.12.25	生活衛生経営安定貸付の創設（24.3.31まで（一部資金は20.3.31まで））	
15. 2. 3	経済再生改革対応緊急貸付の創設（17.3.31廃止）	
20.10. 1	国民生活金融公庫と他の政府系金融機関が統合し、株式会社日本政策金融公庫発足	